

## CPC ペイントシーラント判決の件について

最高裁判所は、平成 17 年 12 月 16 日、当社が上告人兼申立人、中央自動車工業株式会社が非上告人兼相手方の同社販売に係る商品の表示が商品の品質及び内容を誤認させる表示であるか否かの不正競争差止等請求控訴、同附帯控訴事件について、次の決定を下しました。

- 1 . 本件上告を棄却する。
- 2 . 本件を上告審として受理しない。
- 3 . 上告費用及び申立費用は上告人兼申立人の負担とする。

当社は、CPC ペイントシーラントが、テフロン被膜を形成し、その被膜により「5 年間完全ノーワックス」の効果があるとは到底理解し得ず、消費者及びディーラーの皆様は警鐘を鳴らす意味も込めて本訴訟を提起したものでした。

当社は、東京高等裁判所の判決では、当該商品を塗布してテフロン被膜が形成され、この「被膜が 5 年間保持される」ことについての判断を遺脱しているということを主たる理由にして、上告しました。

なぜなら、消費者の皆様は、各表示の内容から、本件商品の施工により「塗装面にテフロン被膜が形成され」、その「被膜が 5 年間保持され」、その結果、「新車時の塗装の輝きが 5 年間維持される」という効能・効果があると認識されると思われるからです。

当社は、あの商品が、テフロン被膜が 5 年間保持され、新車時の塗装の輝きが 5 年間維持されることは、到底ありえないと確信しておりますので、最高裁判所で「被膜が 5 年間保持される」ことの争点が審理されることを期待しておりましたが、今回の決定は、この極めて重要な争点を考慮することなく、いわば門前払いの形式的な判断で終わりました。

当社は、今回の一連の判決によって、所期の目的を遂げることができず、誠に遺憾に思っています。

どうぞ、皆様には今後ともよろしくご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

平成 17 年 12 月 20 日

株式会社ウイルソン